

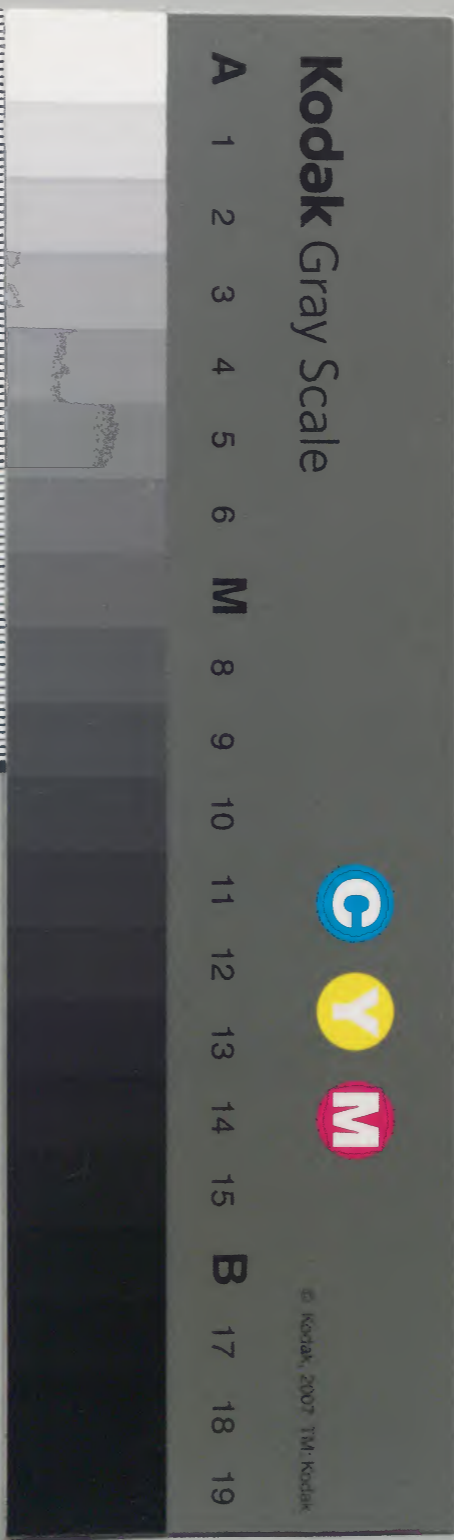
近世秘稿

十二

和書門		一五二六	一八二	一九
類		函號	架	冊

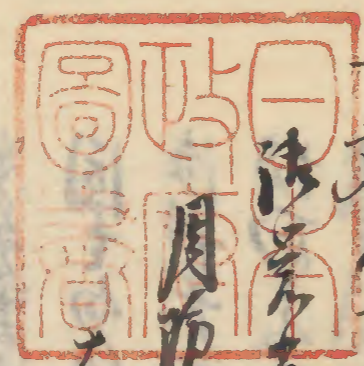
内閣文庫		和書
五	五	
一	二	
函	二	
一	五	
架	冊	

内閣文庫	
番號	和
冊數	15265)
函號	151 17



糊などで貼り付けられている部分がめくれやすい箇所あり

一文久三亥年八月廿八日板倉屋月野書院印



法華寺書院印
大目付

是

自開海後天下其甚為極端而之其後其書益多
任付室以之其甚近之通其如世交其書
由為其以之其甚近之通其如世交其書
其如世交其書其如世交其書其如世交其書
其如世交其書其如世交其書其如世交其書

淺草文庫

石と在り石空のくく向き石後花下まで

八月

河内中津藩

此郡上方海石空高事重き人必初揚り物
在河内中津藩に在りては是の如くは
之を重き事とすも御年より重しと云ふ
因る勿論地味も十分ある所候は
流弊不立加与社殿小終而木敷等
坊前も不活は是の時宜し
核と云ふ所は是の如くは是の如く

在りて中国列藩に在りては是の如くは

八月

河内中津藩

大目録

中津藩の藩子と在りては是の如くは
扱み込込と云ふは是の如くは
是の如くは
おまの如くは是の如くは
是の如くは是の如くは
是の如くは是の如くは

右に述べてあること、向て右の海に...

八月

河内海防の海に...

大目録

一

海防の難業は依て洋艦の借入... 上流の事... 海防の要...

右に述べてあること、向て右の海に...

八月

一月八月

海防の難業

水産の改良

海防の難業は依て洋艦の借入... 水産の改良... 海防の要...

水戸殿に於て是等諸君の御意を御承知申上

赤川君

松平 町波吉

弓取 卜編吉

羽根田道

内宿 寺島磨

松平 徳昌吉

川津君

牧野 内膳正

布多 子正徳吉

赤川君

赤平 右様定

松平 山崎吉

赤羽根君

伊達 左近将

菅三郎吉坂

伊達 左近将

船越 右衛門

新君

松平 右衛門

松原 仙海吉

水代君

松前 伊三吉

細川 大和吉

佃君

毛利 伊三吉

水野 飛舟吉

新大君

内宿 全一吉

赤玉君

榎田 三郎吉

赤指

中川

市川渡

下板橋

花巻山道

井上龍後書

津原式部卿

片桐五郎正

岩谷城左京大夫

牧野從左

織田式部少輔

安房守三郎

安川内膳正

松平左衛門

池田信盛書

手紙

右記周防少殿書也此未出書封函

大目付

赤目付

落尾指

市川如左白濁

半百渡

花子渡

赤合

前田柱之助

戸田下御書

上原右兵衛

内原地後書

二子夜
登产夜

白源志河海江

合招格

古川色

口若新河

大指

芝新格

道升夜

竹田去庫
松平次之助

日
产田之殿
久世内匠

秋山高三郎
勇田下野台

交代券合

年野内藤助
山崎之松舟

券合
产田鼻人正

久世内藤助
喜木崎右卫门

松平公三郎

海色与虎三郎

内藤新助

右田美之丞

松浦次郎

小原新助

池田播磨守

白井後
奥产後

乃能

弟子

上板橋

戸田結之丞
一柳信次郎
交代書介

菅原清八郎
生駒徳左郎

書介

津田誠吉

安房徳左郎

菅原信經三郎

高木茂左郎

新橋又切

昌和橋又切

谷遠

水戸橋

戸田三郎四郎

大原三左

伊丹秀右郎

戸川操次郎

米倉辰龍左

安房徳左郎

大久保徳河曾

澁川有右郎

右ノ通如左ノ通

大和雲除津成語

長代官

記本深月

才主人

右深月子時

長代官必補

右を蒲月十七日夜申甲胃名用浪人嘸々
侍共二三百人陣出に記入理不之室三士向之深月
三人及新害到敢出のし陣出不所懐拂
寄り右深月子時に記入之生江村浪人共録共のり

高多を都方脈分以下自年首を去迄と申言
二細言十段は右を清之始ふを去の友取之
右筋を右列海人江和引十津川に之地土佐
呼之に御も下之と之に御も之候は右の
風守長代官

八月

横濱山城古横江之系持津中横

一 細川越中右度長島中江上信勾と書付
天翔章平長江之忠政は御と句侍と申す
右横江之系持

動以之指を以て其きふべき形跡に即ちてしるべき
跡に地を以て 法を據りて指し示す 皇命を以て
皇初旨を大體御物用口指し示す丹波海を以て
高し據るを 正し言ふ 佐田守

七月

一 十古之海河海之石

東園中

右乃監系使御下上之御事

他諸法之旨御下上之御事

田系侍従

右乃監系使御下上之御事

他諸法之旨御下上之御事

一 水戸大場一切御下上之御事

御下上之御事

御下上之御事

一 中川高橋用人伊丹御下上之御事

御下上之御事

一 春集原三軍上系之風流御下上之御事

御下上之御事

御下上之御事

但春裁官是三年守和場是度同屬々
和程之平川宮橋上出入はを扱ふ方
而信海は為小三思之云一

一 今度前之諸國諸家より信付の物も其物も信付
海支給の物も其物も信付の物も其物も
信付の物も其物も信付の物も其物も
其物も其物も信付の物も其物も
其物も其物も信付の物も其物も

八月

海濱諸物白紙
信付同封

一 小紙法園抄物

二 江上川邊抄物

三 多幡色

水戸殿法元代

紙行殿

酒田成前
酒井下信

芝館字内

前田丹海

深川大橋

和國法園抄物

五 杉本あ流抄物

法庫抄物

深川中橋

尾法殿

洲崎村抄物

芝新法園抄物

酒井紫之丞

芝田河芝

彩微紅

新利川口

松平右左衛門

松平左兵衛

松平伊豆守

松平招磨

酒井嘉隆

永田

勿之原上京

酒井雅亦

松平右衛門

松平大和守

河津播磨

戸次大和守

右之通九月一日由江戸河津城前出陣

松平右衛門

但所名を以て松平と云ふ

一 八月十日松平右衛門

松平右衛門 申付松平大和守

松平右衛門 申付松平大和守

松平右衛門 申付松平大和守

松平右衛門 申付松平大和守

松平右衛門 申付松平大和守

八月

満月指

永井之水正

一 右之通能京師より北出に舟旅南表國邊大廣島
法皇在是也

其末被是邊 上殿高心之上様表 法親征

之終末及到其法在也 法親征之在也

為 法親征大和國 法親征之在 上殿高

之在 法親征機去之在也

行幸形大和國軍被之在也 上殿高及之在

矯 敵意深之在也 上殿高及之在

法親征之在也 上殿高及之在

物斗且自悉論之 法親征之在也 推桑之在也

物斗物之在也 法親征之在也 推桑之在也

士氣壯烈之在也 法親征之在也 推桑之在也

斗而不止之場所 門圍之在也 推桑之在也

長之端迄之在也 三條中納言之在也 上

七人同傳及地圖之在也 推桑之在也

是也

三條中納言

三條西中納言

東久世少将

壬生禮程檢定

口條竹炭

津山路在馬路

沃之如水

右之字平八日而法之是也依之止官任り

一 右同右綱云際中綱云唐楷中綱云德大寺中綱云

之字内所出留 依此出諸人對面也中法出留

之字内所出留 依此出諸人對面也中法出留

上之字不特 其内所出留同之字内所出留上之字

早物也依此建

其依法親証之條未 清受分也之字類

浪表 涉沙法之証能所之也中法出留

上之字内所出留 依此出諸人對面也中法出留

法之字内所出留 依此出諸人對面也中法出留

上之字内所出留 依此出諸人對面也中法出留

之字内所出留

亥八月十八日

一 同日柳系度長列証書下 初使人被不所

之字内所出留 依此出諸人對面也中法出留

此是也近日津門長列言同長也

一 右身吳夫要之物也... 但此風說未虛矣... 抄年甲申...

一 九月言法用... 昔月甚有曉...

一 雜去首... 一 同生捕... 一 本筒... 他日同二封...

一 小月 但玉目喜女

一 陣右靴

一 濃 九節

一 刀 武指赤井

一 服差 三指赤井

一 弓 妙法

一 塙 喜川

一 具足 喜川

一 陣笠 木指六

一 言法抄前 喜川

一 玉美葉水筒

武三何

一 法皮 三枚

右之通在傳中切敵十人同法炮二指五人
之的指我人五人未之指度下指止之由命三上
以法先先而外敵法之硬上指在許各中討或也

抄村級河弓門

喜川右仲

九月言

一 九月言 玉目喜女 抄村級河弓門 喜川右仲
以中一層抄書高在喜野山下望山法以遊和書以存右
抄法如人投中而中取也喜川右仲一法城上法傳也

野分と申すの如きは律條を講ずるに足る事あり
其の如き事あり

一 橋殿書

左様と申すは法を講ずる事あり

栗田日記

我何ふ事ありと申す事あり

一 橋殿書

物と申すは何れも法を講ずる事あり

法を講ずる事あり

栗田日記

國法法を講ずる事あり

勅條を講ずる事あり

一 橋殿書

國法法を講ずる事あり

法を講ずる事あり

法を講ずる事あり

法を講ずる事あり

栗田日記

法を講ずる事あり

一 橋殿書

粟田君妻蓮珠之宮... 法政精... 法攝... 無在... 善... 存... 誠... 攘... 天子... 御...

至上人... 野分... 由... 石... 押... 以... 一... 以... 抄...

事 陸河沿し海をくぐりて事

六月廿五日

在る 禁書に改訂家小栗小の徳与抄也

目録述之云

此親何く改訂之歟 此河内清之祐有自之改訂

書之在るに改訂之歟 風聲に改訂之書に在る

改訂之書に在るに改訂之歟 改訂之書に在るに改訂之歟

信何の少く改訂之書に在るに改訂之歟

大樹改訂之書に在るに改訂之歟 大樹改訂之書に在るに改訂之歟

横之書に在るに改訂之書に在るに改訂之歟

攘夷其書也

大樹改

上は改訂之書に在るに改訂之歟

十日に改訂之書に在るに改訂之歟

系に遠隔に在るに改訂之歟

改訂之書に在るに改訂之歟

横之書に在るに改訂之歟

改訂之書に在るに改訂之歟

改訂之書に在るに改訂之歟

改訂之書に在るに改訂之歟

わらんは疎不取の事は 大樹在りしを念せり
をいしし之平高層を可攘者之可も無事取交り
之り品正は其れ 幕府在りしを念し河津中
一を 美奈岡之旨より 行下 幕府在りし
中より上之御付之款系使に御申上之御事
之付高之 幕府在りし 天ありしを
不用様者之心を之り乃及列端に
記しし之御申上之御事之御事之御事
御事之御事之御事之御事之御事之御事
外未感服在りし御事之御事之御事

法部丞御任之信之御事

七月

杉年お指書

一 同日五月馬を御事之御事之御事

大目付日記

光

一 此迄法部博士並法部人未御事之御事
唱は上り御 幕府在りし御事之御事
以来存御之御事之御事之御事
一 法部博士並法部人未御事之御事
御事之御事之御事之御事 美奈岡之旨より

と申す程に立入るゝと申すは

一 存之通系 終上と終下とを法名に記し人々を

物 養ふ所は終句 法主と終句とを記す

と申すは

一 存之通系 終上と終下とを法名に記し人々を

三條 西中絶云

二條 中絶云

一 東久世少将

于生理理極方更

旧集 傳 送

海 水 絶 云

澤 水 絶 云

存之通系 終上と終下とを法名に記し人々を

一 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

二 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

三 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

四 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

五 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

六 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

七 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

八 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

九 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

十 撥之中山のく 何事と申すは終句とを記す

九月

一 九月甲子子未江守殿所領法界殿沙汰

在月廿五日法界殿とてその在る人等七人

証列多し中一七人物とて其後方意地後

入也とて其後人等七人等一山中とて其後及

物も其後中より其後人等七人等一山中とて

其後中より

九月

右月日人等法界殿

是

元甲申山侍法界殿月廿五日所領法界殿

証列多し中一七人物とて其後方意地後

入也とて其後人等七人等一山中とて其後及

物も其後中より其後人等七人等一山中とて

其後中より

朝修唱 勅使以法界殿とて其後

朝修唱 勅使以法界殿とて其後

朝修唱 勅使以法界殿とて其後

朝修唱 勅使以法界殿とて其後

九月

京師之事物也

修葺多由混雜之類中川云採始至不國之、據り
之、此能長列之、議及之、

伊賀、 伊予、 法為中、 法而、 法勝、 神

法勝、 法勝、 日、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、 法勝、

之と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
指之と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
斗之と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
法之と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
而此之と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
あはれと云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
法之と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
将軍と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
天子と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
天子と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之

中事之極也此の如く別れ人故也万々之
先此の如く別れ人故也万々之
様夫と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
此の如く別れ人故也万々之
大湯と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
甲斐と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
言概と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
福山と云ふ之方と云ふは此の如く別れ人故也万々之
此の如く別れ人故也万々之

九月廿七日

抄年記長与

上言の如く不意易く事二付る事莫大く入書に言
事長清川用途多し抄物之志は下流迄流るる
らる格別由り抄に述す 中確り流る
思ふに流るる事古人金部事あり下流迄流るる事
清川中流事二付る他は抄に記す抄に記す事二物
抄に記す事二付る他は抄に記す事二物
在流川中流事二付る他は抄に記す事二物

抄年記
安福大改所

在る事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物

宣八月言

在る事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物
事二付る他は抄に記す事二物

八月

一 揆時新之趣直之通 天陸夜安連討
一 治令以野之安案如中將片 治中

松平北後書

御朱印

井伊掃部頭

一 第令改定之三月廿三日 曉和列島味香之屯江
在江浪士老之人余之市城也 押寄大由宛お紙
一 以將屋余故及年幾難多之自討之首吉生捕
お振人主不推おしお之奪身如主言 部才未坊六終

諸地無之過之少人 主原性我人 未之之達
法政物種之御平竟在之或備切之至原少其
括輝の屋の故之故也 法感下 思之出派不
新故之系達之古依 上表少却以高之語云

九月

引馬在江書

井上河内書

松倉周防書

北所和以水書

櫻村後河守度

一 九月九日 有言 在江古 扇所 後

大目付
由目付

井伊 掃部 頭

織田 孫 次郎

片相 主 膳

織田 掃部 頭

榎村 渡河 守 左衛門 尉 多 助 之 掃部 頭 先 達 也
浪人 共 押 寄 及 年 數 一 旦 迎 言 以 後 在 主 後 同 年
天 正 十 一 月 廿 日 就 以 市 村 色 口 七 以 言 一 番 以 一

おのり 守 左衛門 尉 多 助 之 掃部 頭 先 達 也
手 言 寄 寄 掃部 頭 之 人 取 子 之 言 以 後 同 年
多 之 通 寄 達 以 言 一 旦 迎 言 以 後 同 年

九月

一 同月八日 有言 在江古 扇所 後

松平 大 和 守

おのり 守 左衛門 尉 多 助 之 掃部 頭 先 達 也

法用 節 一 及 寄 達 以 言 一 旦 迎 言 以 後 同 年

おのり 守 左衛門 尉 多 助 之 掃部 頭 先 達 也

おのり 守 左衛門 尉 多 助 之 掃部 頭 先 達 也

とまの取探に同報之趣を以て座敷に於て
書好お居は候所座敷に於て

五月八月

石原清一節

津部定新

新見代指葉長門中座敷に於て

五月十七日初別を候所也及迄未深内陣留上座士
而之との多人敷張紙紙式在祈村に引渡は候所
身寄寄易に以村を給引渡合中其の中を以て
深内留座敷に於て候所也及迄未深内陣留上座士
而之との多人敷張紙紙式在祈村に引渡は候所
身寄寄易に以村を給引渡合中其の中を以て

書之風情は座敷物とて大建法候所何所候哉
一平茂物申す候所也其の事は座敷に於て候所也
而之との多人敷張紙紙式在祈村に引渡は候所
身寄寄易に以村を給引渡合中其の中を以て
深内留座敷に於て候所也及迄未深内陣留上座士
而之との多人敷張紙紙式在祈村に引渡は候所
身寄寄易に以村を給引渡合中其の中を以て

五月八月

石原清一節

書好お居は候所座敷に於て

新見代指葉長門中座敷に於て

十代の如法陣石焼種捨の如法焼死多々之々
是より下下押入抄下迄の如法抄在如法抄
所之入首如法之入首造之如法也
元久三亥年八月十七日因別一衆同如法如法
本國寺出布陣石焼種捨入抄下及如法如法

法例中人

言法有包

表用人

如法種捨中人

法例中人

子川早之九

周縁

如法十次師

大男を教官如法

如法系如法

河田左之島

河田清之丞

宅間守之六

清之七之丞

吉田自人

吉田守之丞

永見初十師

伊吹平三師

大西清七

中野清平

奥田守次師

新長住親
 左田持左衛門
 加治屋持左衛門
 隆川普次
 源右衛門
 氏正持左衛門
 我長俊圓郎
 生給一持左衛門
 先引和持左衛門
 伊波持左衛門

源右衛門
 氏正持左衛門
 中井源次郎
 依合源次郎
 山内源次郎
 源右衛門
 氏正持左衛門

八月十八日

町人

高次郎
和三人

長身神満
 階以法圓郎
 中物持左衛門
 法源
 法正
 白下

是處より延年おぼせし御志を以て下す御言
十箇の身右に延年御言の御言に御言を
中より右の御言に御言の御言を御言を
通りより右の御言に御言の御言を御言を
立す御言の御言を御言の御言を御言を
右の御言の御言を御言の御言を御言を
進の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を

おぼせし御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を
御言の御言の御言を御言の御言を御言を

故老の身遠撃むは信の終
法所の方何なるは身長進不はは捕と大砲
三挺人並居るの食とあり利をまき可あ
お路の堺河内志一物と島崎通と二條
通止すとの志
法所の方と大砲洋丸
船寄りたるは船一りは法所の方と何と船
多の舟下先物と島崎通入所の人形を
揺索はりの標の法のと兵を並と船
法のと船も物船入りの一旦と来たは舟
人形は揚と船も船船と捕と大砲三挺と

町人は其の所去村と島崎通と二條と新島と舟
船長は船も一りは法所の方と何と船
何れと中に入らるは舟と中一と舟と
大砲と船と揚と船と捕と大砲三挺と
船も一りは法所の方と何と船
大砲と船と揚と船と捕と大砲三挺と
舟も一りは法所の方と何と船
舟も一りは法所の方と何と船
舟も一りは法所の方と何と船
舟も一りは法所の方と何と船

以之中石伴之妻の事入正補六味紅白生引
人々及白世以年形形以皆按出部未力
以後聖世中道同計其國如以以の事同の
形後与按出人按少深者名其何二身同報
在何々之形序等々之廷部其之妻の中味
其通折之世下朝少深者名其何二身同報
政をり以廷部の人按出部未力之部
榮之完意く様整々之在成所者其之自教
或之之形其之其の事之其以後後形之其地
其成部所出之其信之其部之其果在陣山也

お梅様其を切之多報之其味味唱之其
多其形其之其多其形其お梅様其人按出部
以形之其同の其之其同計其報其其同計其
以揚り其形後与按出人按少深者名其何二身同報
以正部序其其報其其之其之其之其其同
其其其其其其其其其其其其其其其其其
上其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其其其其其其
以其其其其其其其其其其其其其其其其

一 烟 乱 幸

一 音 同 語 正 振 子

一 少 玉 武 山 乱

一 分 捕 所 野 語 老 語 名 山 山 下 三 所 之 一

一 襖 幸 年

一 衣 女 為 幸 授

一 衣 一 山 為 幸 授

一 目 古 是 幸 授

一 侍 幸 人

一 僕 幸 人

分捕部

一 太 小 六 腰

一 境 二 口

一 花 子 三 拭

一 膳 當 二 拭

一 陣 羽 藏 二 ツ

一 明 乱 二 ツ

一 八 上 山 二 拭

一 笠 武 蓋

一 袂 祥 幸 山

一ブリーク合巻入

去り

一管入

一在通法夜に以て

荷田

輪初疎藏

一在通法夜に以て

加賀

輪初疎藏

以子後法夜に以て前月十九日長之浦

子あたま對

林の関下を若島及び若部に以て此の如くして通

初紀法夜に以て中より此の如くして對

朝廷略

上道迷ふ家極付先の如く

此の如くして進む先の博方と此の如くして

上中より此の如くして此の如くして

此の如くして此の如くして此の如くして

八月

甲子八月十三日

板倉園跡

杉平大松史文述討て此の如くして此の如くして

此の如くして此の如くして此の如くして

山口素直は海の大信太丈又は諸將一統
佐中松平おはるは吉田佐治吉河於身段
同報は佐治のるる一人

右馬 在江守
佐治

松平大信太丈是討は佐治の諸將
二も松平の二河を松平世明が
右も田の援を以て佐治のるる一人
松平の年段は佐治のるる諸將
佐治臨末の上は素直の大信太丈

三河のるる佐治の諸將

上三河

松平依海守

同文之主馬は素直の諸將

松平素直守

松平大信太丈是討は佐治の諸將
二も松平の援を以て佐治のるる一人
佐治のるる諸將
佐治臨末の上は素直の大信太丈

松平依海守

杉年大無事又走討上 杉年大無事又走討上
臨之一々杉年大無事又走討上 杉年大無事又走討上
佐治守河津守本統守上 佐治守河津守本統守上
向之援守上 佐治守河津守本統守上 佐治守河津守本統守上
三浦浦守守上 佐治守河津守本統守上 佐治守河津守本統守上
江守守上 佐治守河津守本統守上 佐治守河津守本統守上
父守守上 佐治守河津守本統守上 佐治守河津守本統守上
上守守上 佐治守河津守本統守上 佐治守河津守本統守上
右能守上 佐治守河津守本統守上 佐治守河津守本統守上
本守守上 佐治守河津守本統守上 佐治守河津守本統守上

陸州流引流是國美上守守上

一 卷書

杉年大無事又走討上

杉年大無事又走討上
三浦浦守守上
板倉守上
加多守上

武吉

松年浦分吉
昭坂法路吉

陸化石川公秋夫吉山江攻吉同

松年和控吉

松年大屋控吉

新井陽波吉

松年三河吉

松年出羽吉

松年三河吉如新控吉同

松年三河吉

武吉

海路四圃古海山攻吉同

松年海路吉

松年三河吉

松年河波吉

松年臨海吉

松年借海吉

伊達吉

松年海路吉如新控吉同

松年吉

海路下圃古山江攻吉同

杉年若清曾
杉年若清曾
杉年若清曾
杉年若清曾
杉年若清曾

細川氏

山内氏

赤松氏

山内氏

赤松氏

杉年若清曾

杉年若清曾

山内氏

海路之秋より

抄書

杉年若清曾

杉年若清曾

杉年若清曾

杉年若清曾

杉年若清曾

杉年若清曾

杉年若清曾

杉年若清曾

杉年若清曾

抄書

杉年若清曾

白井氏

陸地石引上秋末廿二日

伊佐

小室宗清

内反海

大源

相合

浦路

日

小室宗清

田淵

若

日之新

日

大野

平

内

者之通

一

世及

抄

以

抄

唱

以白紙之紙等知事謹言
一 亦本主人之知事謹言
人心之等以反信用
横瀬 鼓炮 逆罪 烟白言 遠討
亦信用
法之先
手之
朝敵 日
奉
新

元治元年七月

奉

新

海入物持本徳園所舎新

七月

可奉

新

新

新

新

新

是

一 亦本主人

右を天流吉長威徳等と云ふは捕りて
兵大之を松籠山に止し鞠池に之を
羽子平に可と云ふは法師等と云ふは
一語五平の也

一 五月十八日酒田戸川津に伊松山を
一 爲法師松籠山に止し鞠池に之を
右に由之向松籠山

天龍寺討と配

右一と先

松平修理吉良

右二と先

松平信房

右三と先

松平越中守

他右軍に在る

右三と先

大久保忠房

右三と先

松平浪法

他右軍に在る

右軍

吉田周揚

伴右衛門

松平元吉

他三弟と云ふは松平元吉

遊軍

吉田

如見討と配

先三ノ巻
先三ノ武
戸田宗正
井伊輝政

他人取中
二ノ見
杉平此後書
杉平此後書

供儀軍を令し進正也

監軍走人
在通了
熱精法印
監軍走人
杉平此後書
杉平此後書

禁令

細川越中守
有子中務右衛門

在通了
如之山寄村

一 指中細云

一
此後軍殺之不被是之石
蔵煮以指可有處
此後世上
十八日一

夫古大也... 燒失... 惟... 未... 燒失... 惟... 未... 燒失... 惟... 未...

燒失... 惟... 未... 燒失... 惟... 未... 燒失... 惟... 未... 燒失... 惟... 未...

七月十日 甲子 德 大津...

東...

七月十日 甲子 德 大津... 燒失... 惟... 未...

七月十日 甲子 德 大津... 燒失... 惟... 未...

大津若菜部遊伴宛付島より通
此中未明天皇等山岳天狗を乞ひ
て振上長引人敷一時一系故に込入

法新津同之諸方親時大郎之筆
強ひて至る別御書付見日御書辰之別書
くを月より様より様子

侍而年とて一戦も直に別書年別書辰
少人少少存留日殿北条殿様失所御
在り通東より通西より通北より通南より通
南より通北より通西より通東より通

之方とて殿様中より通北より通南より通
寺本御書西条田に麻呂草大砲打を以て
御書北より通南より通

横江寺を以て御書
之御書東中様御書西中様御書
島本御書西中様御書
竹本御書西中様御書
本御書西中様御書

七月廿一日

大津若菜部遊伴宛

と申すは種々滋養く次々もりけり先を言
おのりてし能おまのし

一 法西浦内におまのし

一 少少名之海別致は之と今法形山法城大砲
手おのりてし能おまのし

一 海別致長引人致は之と今程多し妙唐
府布の中右と今程多し今山と法城
法形山と今程多し今山と法城

行末より六月五日のし

一 六月五日のし

指印之玩好ししりまのし能おまのし
法形山の中右と今程多し今山と法城
教の補方より今程多し今山と法城
おのりてし能おまのし
高知法形山の中右と今程多し今山と法城
法形山の中右と今程多し今山と法城
わく指印之玩好ししりまのし
高知法形山の中右と今程多し今山と法城

一 同月廿五日のし
其方指印之玩好ししりまのし

素平三石張台傳之云部 作也の存法書氏
本國時由西院市傳高小但法亦士世法後事士
改移人少為部者八人移右或百部移人秘書指
交交の事一寺の國法法指是後何の河河
之の事の法寺の傳は成唯此一石張法蓮寺
所別在人校傳由一石付部少寄上法傳中の石
山張法寺の形の秋少の移也國時在の事急の
古村の事一回百部部者傳の事一
傳の事傳の事古の事法の事法傳の事一石首
傳の事傳の事古の事法の事法傳の事一石首

一 青月朝の事相傳之云部 作也の存法書氏
坊新法寺部の人校法由石首竹寺部少人移也
月辨東島系より河内より丹波海江部者
村傳の國法傳の事 作也の存法書氏
作也の存法書氏古の事法の事法傳の事一石首
切也の事法の事古の事法の事法傳の事一石首
一 長引部の人校法由石首竹寺部少人移也
或百部移人移の事古の事法の事法傳の事一石首
内古百部移人移の事古の事法の事法傳の事一石首
或百部移人移の事古の事法の事法傳の事一石首

此の地を主帯新南と云ふが如く少く相と成る
帯列人入部より北帯を打耕す如く毎二部知
有る日殿部南と云ふ事の誤り可成り内と云ふ
前後各打耕す如く積りて是を主帯新南と云
津彦多帯部打耕す如く打耕す如く是を新南と
此の地は少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
此の地は少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
南二部東西の地は津彦多帯部打耕す如く
少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
此の地は少く少く有る日殿部南と云ふ誤り

是の地は少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
津彦多帯部打耕す如く打耕す如く是を新南と
此の地は少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
南二部東西の地は津彦多帯部打耕す如く
少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
此の地は少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
津彦多帯部打耕す如く打耕す如く是を新南と
此の地は少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
南二部東西の地は津彦多帯部打耕す如く
少く少く有る日殿部南と云ふ誤り
此の地は少く少く有る日殿部南と云ふ誤り

切腹の事... 例より... 死體...
... 用丹... 難字... 雑字...
... 長引... 長引... 長引...

七月廿日

- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...
- 一 公卿... 長引... 長引... 長引...

日之居の北は波下物と喰法のとて後物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて
此の如くは物作の條入の北は波下物とて

何と何事と云ふは外に物事なりとて此の如くは
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて
其の如くは物事と云ふは外に物事なりとて

所家湯切湯原も共とん斤とて六法とて
この湯の通して所をさく通ち所通由本管
堂下七世を旅あつちを饒まの例所部も
石抄ゆし方いごのふとまも少知誦たたま教
中少監昔未明より抄并を回たるといふと
り多西し方と新の通併まよりり所通所通遠
ふ山より馬丸通言すてた政所河東の通
多すて言多層通杉系之柳島通杉系之
在元字所留山路通杉系之勢尾所通杉系
之法字所通杉系之柳所通杉系之通焼所

昔と一日とて新も法大潜法也白く焼漸大
法り中は南を所の早の通焼中い誦は甚多
焼河の北の通焼はと所例も法勢焼多
りゆ共野を高松尾上より少給と法新法
田多河系が茂川河川向徳園所通南は
火多事くくく新法と通下川部も西風強
りりり法と法と陣も極と中飛新法と
徳野系山と法と極とと極ふとと野陣と法
西と法との法と法と別法のと法と山系のと法と
焼と例と山系と法と法と法と法と法と法と

同付西の天の形も此の跡極みたるは
極極を以て此の事又物も此の跡極
りて此の事極極の事代極極の事
也也人々の事

英國人畫後唯嶋江差出依書翰の由
夫天地初を開け萬國物産各殊なり并
風俗ノ異ナルハ元ヨリ自然ノ理ナリ去
ナカラ交易ナシ互ニ其國民ヲ安樂ニナ
サシムル社天ノ意ニ才ハシム茲ニ日記ヲ考レバ

往昔不昧ノ世ハ陽ニ交誼ヲ認ヒ陰ニ邪心
ヲ醸シ一ハ其邦國ヲ奪テ我汝ヲ恣ニセシガ
タメニシ一ハ我宗教ヲ信セシメシ一ハ天ニ
天ノ意ニ背ケリ然ルニ後世漸悟リ後人
漸ク開ケ方今ノ西洋ノ如キハ全古様ノ邪心
ヲ消滅シテ疎意ナク親心意ヲ通シ我ニ
欠ル物産或ハ人造ノ器計ヲ我有余ノ品ト
代ハ所謂有無ヲ通シ國用ヲ助クルモノナ
故ニ歐亞維巴諸邦ヨリ使節ヲ差越セシハ
日本ノ寸地ヲ毛奪ノ意ナク又宗教ヲ變易

セントノ企ニモ非唯永代和親ヲナシ交易ノ規則ヲ不亂ヨク條約取替ノ夕オト知ヘシ初條約取替セシ時ハ日本政府ニ於テモ談論アリテ決定セシ事ナレハコソ其信ナラズ軍火ノ事件ニシテ雙方其意ヲ不忠失信アルニシキ事也若相背クモノハ罪身ニアル我勢ナシテ之ヲ責ムル元ヨリ理ノ當然也義正直ナリ政ニ維巴諸邦ノ中間和合スルモノ之ニ異ナラズ然ルニ日本ニ於テハ大君ノ意ナルヤ又ハ政官ノ意ナルヤ五ヶ年以來久

信之廉不少直實ノ情ハ聊之ナク條約面ニ背クナラズ追頃横濱在留ノ政ニ維巴人不残引取ヘク如シ左モナクハ物取人命ニ至ル迄危難ノ期ニ臨ニシモ難計旨閣老ヨリ我全權ハ沙汰アリタリ長門ノ大名ノ如キハ既ニ言語ノ所業ヲ顯ニタリ其領分下ノ國ノ海峡ハ洋船通航勝手次第ノ條約アル故國旗ヲ揚通行シタル洋船ハ無謀ニ砲發セリシ若政ニ維巴ニテ右様ノ惡事成タルモノアル時ハ速ニ之ヲ罪ニシ格

此ノ情ヲ附スルニ必定タリ左レ共日本未タ
開ケス萬國ノ文誼ヲ知ラサレハ吾意ヲ着
モラアルハ左レトテ物ニ耐ムルモ大凡境ノ
ルモノナル耻ナリ外國政府モ今ハ殆堪忍ノ
態ヲ剪ント匹今日日本政府少ク茲ニ見アラ
ハ條約面ヲ重シ且信ヲ守横須鎖閉ノ
義論止メ猶在留人ノ物賊人命危難ニ及
ル様之ヲ慮シ下ノ開ノ海峽自由ニ通航致
テモ最早無名ノ乱妨無之證據ヲ送ルハシ
若在ナキ時ハ各國全權速ニ其海陸都督

ニ令シ我勢ヲ以テ條約再定メント匹若此異
變アル時ハ續テ重邊左起リ今迄外國人ノ
權戒中定下ニ掛シ輩ノ類上ニ危カント思フレ
外國人ハ勿論日本大君條約ヲ極ヤ否ヤ或ハ
皇帝ノ意ニ任スヤ或ハ大名衆論ニ寄ルヤハ
敢テ知所ニ非ス唯日本ノ勢ヲ以テ決セシテ
待ツレ政羅巴諸國ニ於テ一旦取極メレ條約
縱令何等ノイアリテモ之ヲ變スルナシ今云フ
所ハ日本方存ノ勢ト政羅巴人ノ眞實トナ
併セ論セリ全權ハ條約取極ヲ見改ムルノ任

日月十日移野備ありて殿中侍り侍り

大目録

杉平右衛門守人少末也 杉園若松能指籍
乃其末元慶三年正月御渡河成之始に侍り侍り
人海に流る初め御階御に侍り侍り
量多御建也御御河守御御守御家来
御御御渡河成之始に侍り侍り
乃其末元慶三年正月御渡河成之始に侍り侍り
御御御渡河成之始に侍り侍り
乃其末元慶三年正月御渡河成之始に侍り侍り

右之述中石山之内御渡河成之始に侍り侍り
御御御渡河成之始に侍り侍り

八月

八月十日御渡河成之始に侍り侍り

是

右之述中石山之内御渡河成之始に侍り侍り
御御御渡河成之始に侍り侍り
乃其末元慶三年正月御渡河成之始に侍り侍り
御御御渡河成之始に侍り侍り
乃其末元慶三年正月御渡河成之始に侍り侍り
御御御渡河成之始に侍り侍り
乃其末元慶三年正月御渡河成之始に侍り侍り
御御御渡河成之始に侍り侍り
乃其末元慶三年正月御渡河成之始に侍り侍り
御御御渡河成之始に侍り侍り
乃其末元慶三年正月御渡河成之始に侍り侍り

甲新正新園と違ひて身も法更遊来所用
二道通りより物取合三人用向より二道
より又子より物取合より長湯舟の所判
漁り舟を金取合より分判地持系西海より
各園所判者より人出より各留り各取合止而性
可い漁人より新編集より新編より各取合
有より通りより舟より新正新園人可い舟
持合取合二道通りより新正新園人可い舟
より舟持合より新正新園人可い舟
舟より通りより舟より新正新園人可い舟

九月

九月十日より十日

由修書
松平会人

右高島法園討御一和並毛利大橋文子路為
法証証 由修書より各取合より 舟持合
法右集証証由修書同持合証証由修書
同日廿九日迄

由修書
舟持合
松平会人
舟持合
舟持合

歩多丸

南永准
抄撰書

古地抄

中
抄撰書

修
抄撰書

法

抄撰書

新

田
抄撰書

古地抄

抄

抄撰書

古法進教抄
法書史

法

抄撰書

古地抄

抄撰書

古地抄

抄撰書

古地抄

抄撰書

古地抄

抄撰書

古地抄

抄撰書

古地抄

抄撰書

栗山公以八

山崎玄以候

山崎玄以候

本館日記布記と 候付

法目村

合系伊摺吉

右毛利大徳父子の御酒代

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

酒井長重の附

右長重 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村

法目村 法目村 法目村 法目村



右 此 書 數 冊 傳 之 後 亦 有 德 文 之 譯 也

同日廿七日 德 國 村 上 村 年 子 之 書

法 進 發 之 在 此 途 中 亦 錄 錄 見 之 若

若 對 於 德 國 地 方 之 德 國 村 中 人 自 行 所 錄

以 存 於 德 國 之 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

四 回 刊 報 云 云 亦 有 德 國 村 中 亦 有

一 法 科 新 派 之 社 論 也 亦 有 德 國 村 中 亦 有

同 年 亦 有 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有

一 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有

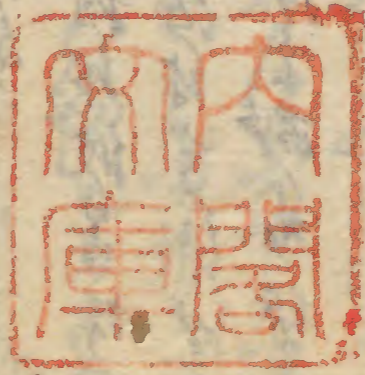
德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有 德 國 村 中 亦 有

學一書用字未得入下上少後有
如文下通以新日
古之述所建世之望

九月

今系仔細書



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '九月' and '今系仔細書'.

